

家計調査 平成21年7～9月期平均結果の概況

- 家計収支編（二人以上の世帯） -

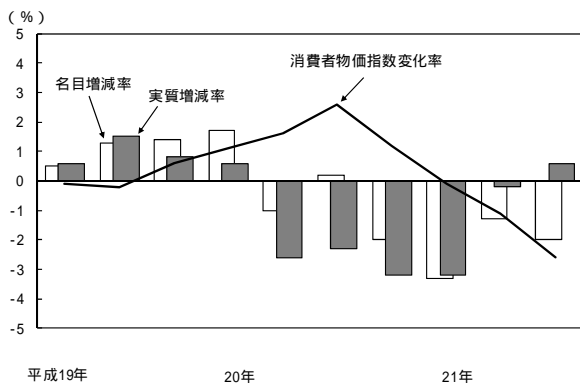
家計収支の概要

1 消費支出は6期ぶりの実質増加

平成21年7～9月期の二人以上の世帯（平均世帯人員3.10人、世帯主の平均年齢56.1歳）の消費支出は、1世帯当たり1か月平均284,387円で、前年同期に比べ名目2.0%の減少、実質0.6%の増加となっている。

最近の消費支出の動きを対前年同期比でみると、平成20年10～12月期、21年1～3月期、4～6月期と3期連続して名目実質共に減少となっていたが、7～9月期は名目では減少、実質では増加となっている（図1）。

図1 消費支出の対前年同期増減率の推移



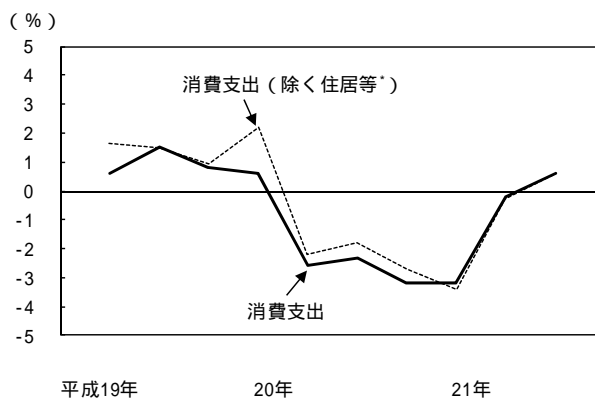
(注) は1～3月期、 は4～6月期、 は7～9月期、 は10～12月期を表す。以下同じ。

また、消費支出（除く住居等^{注1}）についてみると、平成21年7～9月期は前年同期に比べ実質0.6%の増加となっている（図2）。

注1) 「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」及び「仕送り金」を除いている。これらの見方については、「家計調査の結果を見る際のポイント」No. 4(下記URL)を参照されたい。

<http://www.stat.go.jp/data/kakei/point/pdf/point04.pdf>

図2 消費支出の対前年同期実質増減率の推移

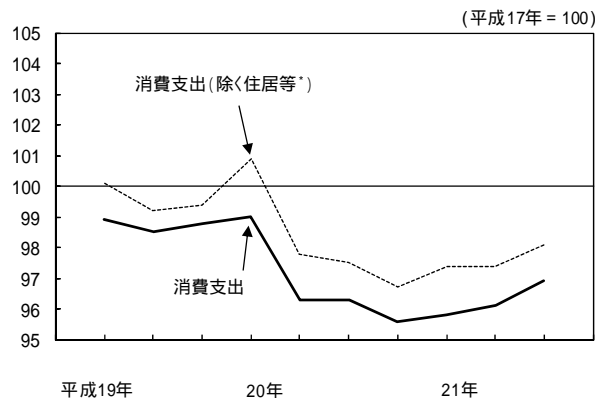


* : 「住居」のほか、「自動車等購入」、「贈与金」及び「仕送り金」を除いている。図3も同じ。

季節調整済実質指数で消費支出の足元の動きをみると、平成21年7～9月期は前期に比べ実質0.8%の増加となっている。

また、消費支出（除く住居等^{注1}）についてみると、平成21年7～9月期は前期に比べ実質0.7%の増加となっている（図3）。

図3 消費支出（季節調整済実質指数）の推移

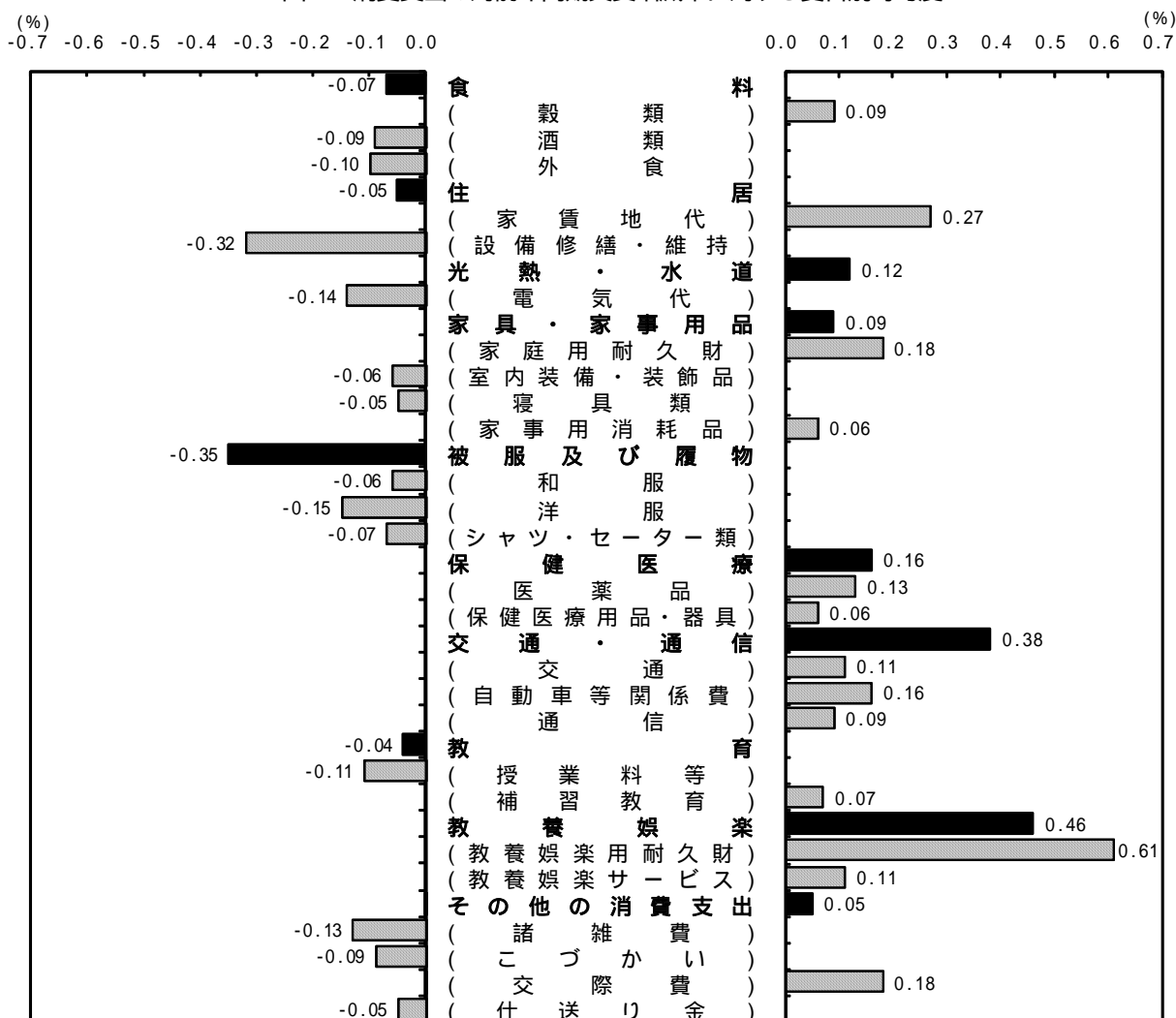


2 教養娯楽、交通・通信などが実質増加に寄与
平成21年7～9月期の消費支出の対前年同期実
質増減率に対する寄与度(%)を費目別にみると、
教養娯楽用耐久財(0.61)及び教養娯楽サービ
ス(0.11)を含む教養娯楽(0.46)のほか、自動車
等関係費(0.16)、交通(0.11)及び通信(0.09)
を含む交通・通信(0.38)、医薬品(0.13)及び保
健医療用品・器具(0.06)を含む保健医療(0.16)、
光熱・水道(0.12)、家庭用耐久財(0.18)及び家
事用消耗品(0.06)を含む家具・家事用品(0.09)

交際費(0.18)を含む「その他の消費支出」(0.05)
が消費支出の増加に寄与した。

一方、洋服(-0.15)、シャツ・セーター類(-0.07)
及び和服(-0.06)を含む被服及び履物(-0.35)
のほか、外食(-0.10)及び酒類(-0.09)を含む
食料(-0.07)、設備修繕・維持(-0.32)を含む住
居(-0.05)、授業料等(-0.11)を含む教育(-0.04)
は消費支出の減少に寄与した(図4)。

図4 消費支出の対前年同期実質増減率に対する費目別寄与度



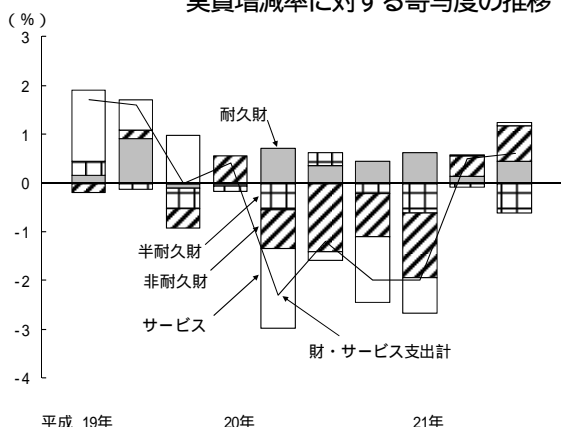
(注) 1. 平成21年7～9月期
2. グラフ中の黒棒の部分は10大費目を表す。
3. 「その他の消費支出」、こづかい、交際費及び仕送り金の増減率の実質化には、消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。

最近の家計消費の特徴

1 耐久財、非耐久財及びサービスは実質増加に寄与、半耐久財は実質減少

消費支出からこづかい、贈与金、「他の交際費」及び仕送り金を除いた支出金額（以下「財・サービス支出計」という。）の四半期ごとの推移を四つの区分（耐久財、半耐久財、非耐久財及びサービス）別にみると、平成21年7～9月期は、半耐久財を除く三つの区分が消費支出の増加に寄与したことから、2期連続の実質増加となった（図5）。

図5 財・サービス支出計の対前年同期実質増減率に対する寄与度の推移



(注) 財・サービス支出計は、品目分類を再分類して集計しており、こづかい、贈与金、「他の交際費」及び仕送り金は含まれていない。

2 実質増加が続く耐久財への支出

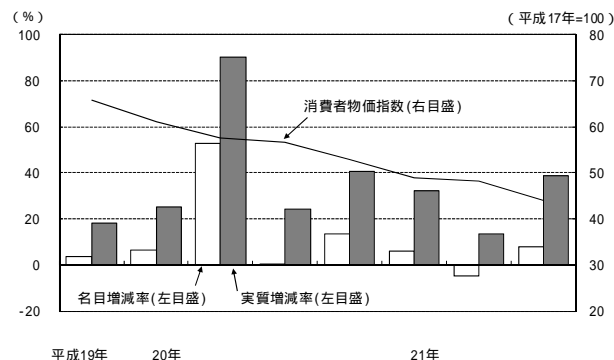
耐久財への支出は、前年同期に比べ、平成20年4～6月期以降6期連続の実質増加となっている。耐久財の主な品目の動きをみると、次のようになっている。

ビデオデッキ

ビデオデッキは、価格が低下していることもあり、平成21年7～9月期は前年同期に比べ実質38.9%の増加となり、19年4～6月期以降10期

連続の実質増加となっている（図6）。

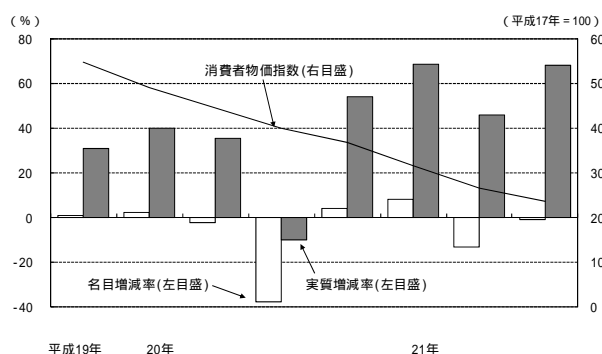
図6 ビデオデッキの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



パソコン

パソコンについても、価格が低下していることもあり、平成21年7～9月期は、前年同期に比べ実質68.0%の増加となり、20年10～12月期以降4期連続の実質増加となっているが、名目では0.7%の減少となっている（図7）。

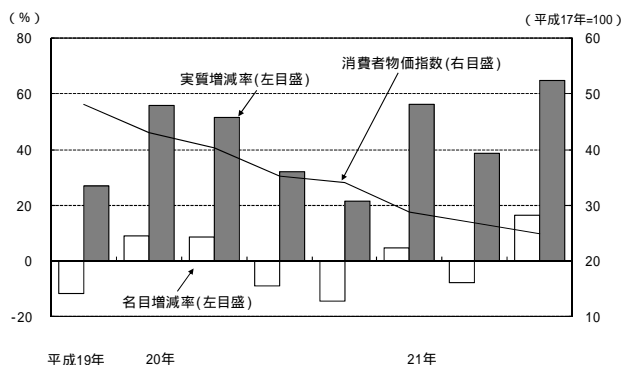
図7 パソコンの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



カメラ

カメラについても、価格が低下していることもあり、平成21年7～9月期は前年同期に比べ実質65.0%の増加となり、16年10～12月期以降20期連続の実質増加となっている（図8）。

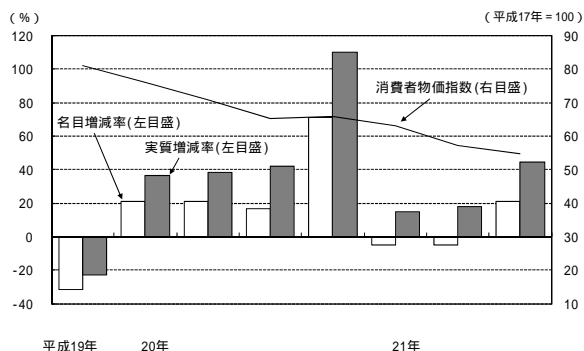
図8 カメラの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



電気洗濯機

電気洗濯機は、平成21年7～9月期は前年同期に比べ実質44.5%の増加となり、20年1～3月期以降7期連続の実質増加となっている(図9)。

図9 電気洗濯機の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



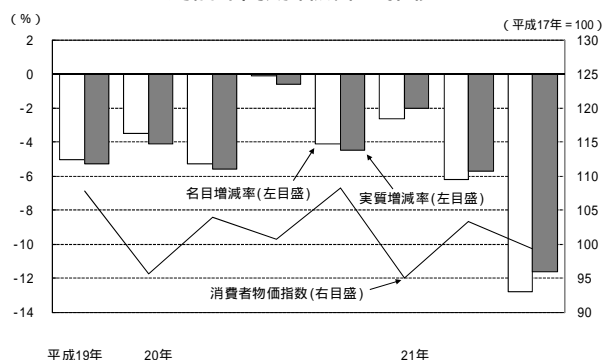
3 実質減少が続く半耐久財への支出

半耐久財への支出は、前年同期に比べ平成20年10～12月期以降4期連続の実質減少となっている。半耐久財の主な品目の動きをみると、次のようになっている。

洋服

洋服は、平成21年7～9月期は前年同期に比べ実質11.6%の減少となり、19年7～9月期以降9期連続の実質減少となっている。また、平成21年7～9月期はこの期間の中で最も実質の減少幅が大きくなっている(図10)。

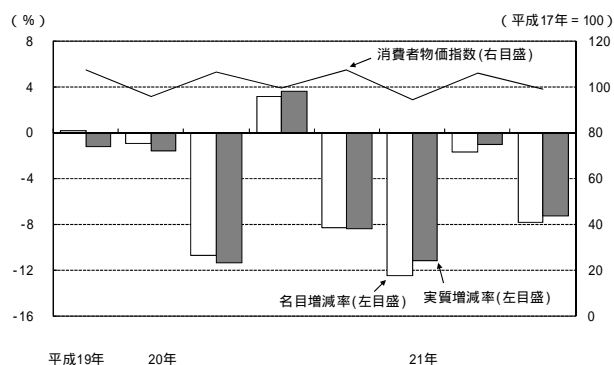
図10 洋服の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



シャツ・セーター類

シャツ・セーター類は、平成21年7～9月期は前年同期に比べ実質7.3%の減少となり、20年10～12月期以降4期連続の実質減少となっている(図11)。

図11 シャツ・セーター類の四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移

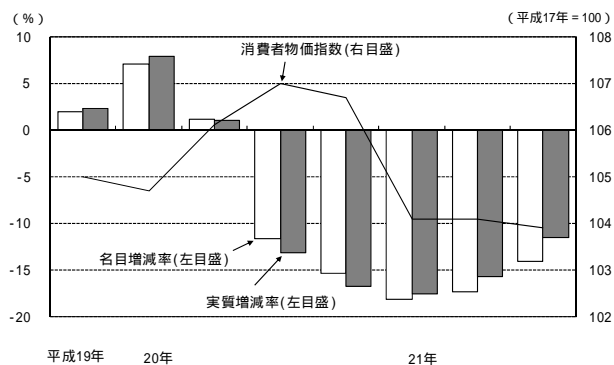


ハンドバッグ

ハンドバッグは、平成21年7～9月期は前年同

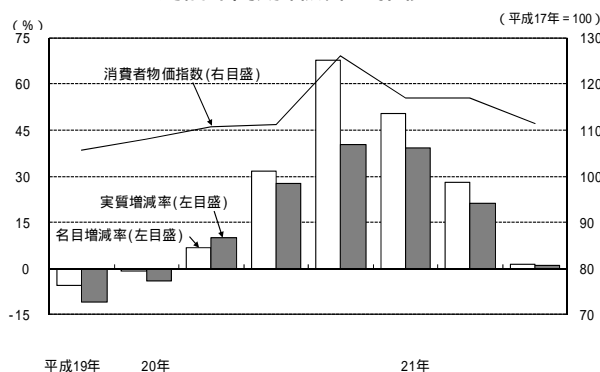
期に比べ実質 11.5%の減少となり、20年7～9月期以降5期連続の実質減少となっている(図12)。

図12 ハンドバッグの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



6期連続の実質増加となっている(図14)。

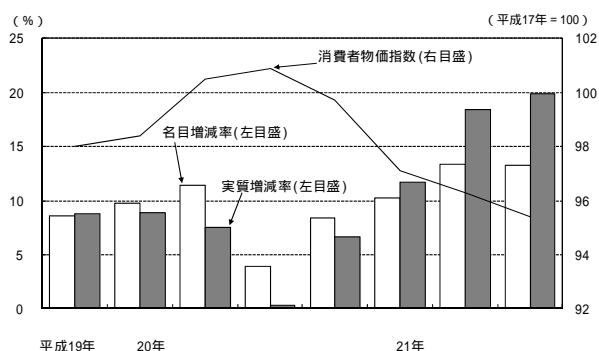
図14 パナナの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



4 その他注目される品目の動き もやし

もやしは、平成21年7～9月期は前年同期に比べ実質19.9%の増加となり、19年7～9月期以降9期連続の実質増加となっている。また、平成21年7～9月期はこの期間の中で最も実質の増加幅が大きくなっている(図13)。

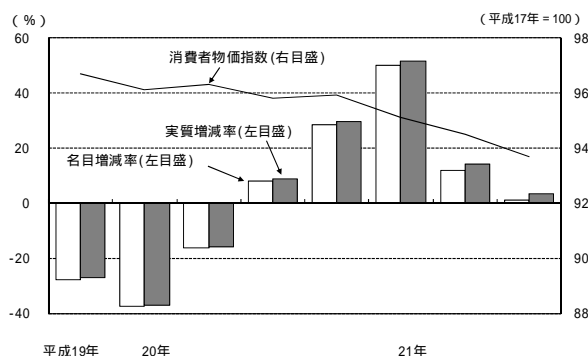
図13 もやしの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



ウイスキー

ウイスキーは、ソーダ割りの「ハイボール」がビールよりもやや安価であることなどから人気となっていることもあり、平成21年7～9月期は前年同期に比べ実質3.3%の増加となり、20年7～9月期以降5期連続の実質増加となっている(図15)。

図15 ウイスキーの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



バナナ

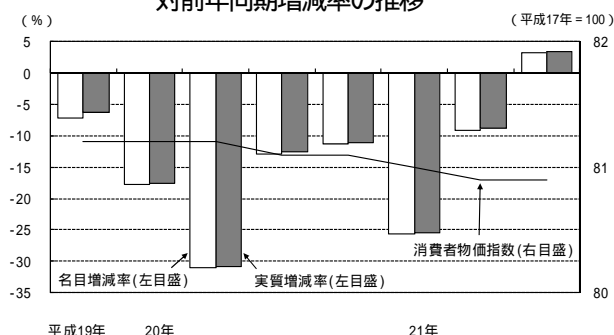
バナナは、平成21年7～9月期は前年同期に比べ実質1.2%の増加となり、20年4～6月期以降

テレビゲーム

平成 21 年 6 月に発売された据置型ゲーム機のソフトが人気を博し、7月には携帯型ゲーム機の人気シリーズのソフトが発売されたことなどによ

り、テレビゲームは、平成21年7～9月期は前年同期に比べ実質3.4%の増加となり、平成19年7～9月期以降8期ぶりの増加となっている（図16）

図16 テレビゲームの四半期別支出金額の対前年同期増減率の推移



エアコン・デシヨナ	-24.1	59.1	-45.2	-1.5
他の冷暖房用器具	-17.3	20.5	45.3	3.1
被服及び履物				
他の男子用シャツ	-22.3	-8.5	26.9	-9.0
他の婦人用シャツ	-8.6	3.3	3.7	-2.0
帽子	-26.6	-19.8	9.0	-17.3
教養娯楽				
スポーツ用品	-10.0	4.1	-11.4	-6.1

(注) 1. 乾うどん・そばは冷麦、そうめんを含む。
 2. 「他の冷暖房用器具」は扇風機を含む。
 3. 「他の男子用シャツ」及び「他の婦人用シャツ」はTシャツを含む。
 4. スポーツ用品は水着を含む。

2 シルバーウィークの効果

平成21年9月は、初の秋の大型連休「シルバーウィーク」があったこともあり、宿泊料、外国パック旅行費及び交際費の平成21年7～9月期は、前年同期に比べそれぞれ実質1.4%、0.4%、2.1%の増加となった。この時期の推移を月別にみると、次のようになっている（図17～19）

最近の家計をめぐる事象

1 昨年の猛暑に対し今年の夏が低温だった影響
 全国的にみると、昨夏が猛暑だったことに対し、平成21年7月の気温は平年並みだったが降水量が多く、8月及び9月も前年同月に比べ気温が低く推移した。そこで、こうした天候が支出の増減に影響を与えたとみられる主な品目等について、平成21年7～9月期の動きをみると次のようになっている（表）。

表 昨年の猛暑及び今年の低温により影響を受けたとみられる主な品目等の実質増減率（平成21年）

	7月	8月	9月	7～9月期
食料				
乾うどん・そば	-12.5	-27.3	-2.2	-17.1
ゼリー	-14.4	-1.9	1.5	-6.7
アイス・クリーム・シャーベット	-9.8	2.6	4.9	-1.6
飲料	-3.1	2.6	3.8	0.9
ビール	-15.9	-12.8	-9.1	-13.2
食事代	-6.4	-1.9	1.3	-2.3
飲酒代	-11.6	-18.9	-7.9	-13.1
家具・家事用品				

図17 宿泊料の月別支出金額の対前年同月増減率の推移

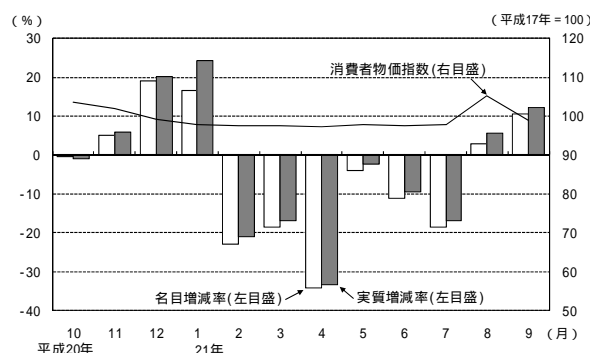


図18 外国パック旅行費の月別支出金額の対前年同月増減率の推移

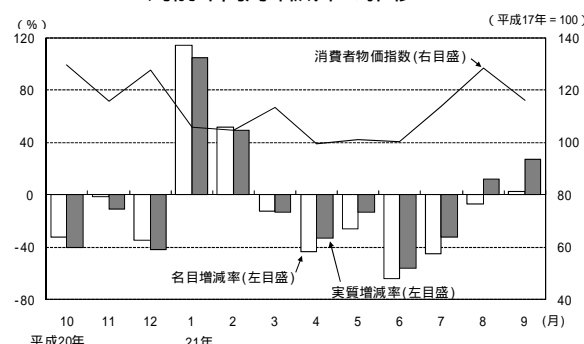
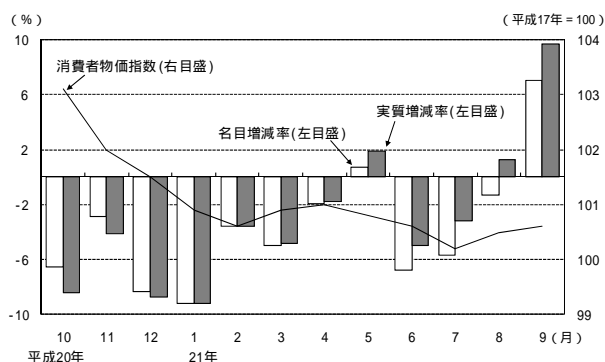


図19 交際費の月別支出金額の対前年同月増減率の推移



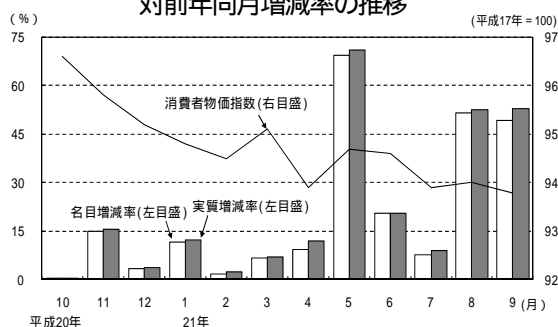
(注) 交際費の実質化には、消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)を用いた。

3 新型インフルエンザの流行

平成21年5月9日、新型インフルエンザの感染者が日本国内で初めて確認され、6月12日に世界保健機関(WHO)により新型インフルエンザの世界的大流行(パンデミック)が宣言された。その後、8月15日には日本国内で初めて新型インフルエンザによる死亡者が発生し、8月21日には厚生労働省から、インフルエンザ流行シーズン入りが発表された。

新型インフルエンザ感染予防に備えたマスク等保健衛生用品の需要が急増したことから、マスクを含む保健用消耗品は、平成21年7～9月期は前年同期に比べ実質38.2%の増加となった。この時期の推移を月別にみると、初の国内感染者が確認された5月と、初の死亡者が発生した8月以降、前年同月に比べ大幅な増加となっている(図20)。

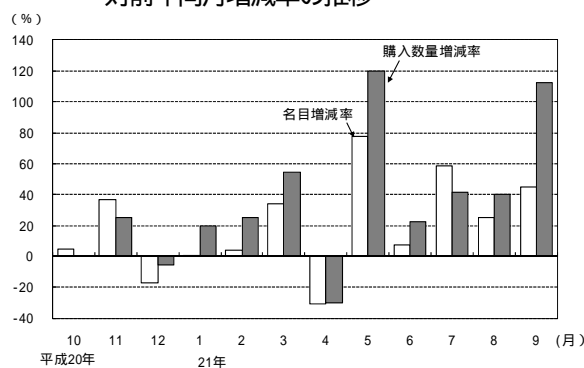
図20 保健用消耗品の月別支出金額の対前年同月増減率の推移



4 エコポイント制度によるテレビ購入の増加

平成21年5月から開始されたエコポイント制度の対象である地上デジタル放送対応テレビを含む「テレビ」は、平成21年7～9月期は前年同期に比べ名目42.1%の増加となり、購入数量も60.0%の増加となった。この時期の推移を月別にみると、制度開始直前の4月に買い控えがみられたものの、5月は大幅に増加し、その後も増加が続いている(図21)。

図21 テレビの月別支出金額及び月別購入数量の対前年同月増減率の推移



5 高速道路料金の引下げ

平成21年3月から段階的に開始されたETC搭載の普通車等の土日・祝日における高速道路料金の割引が8月6、7、13、14日の平日にも適用されるとともに、東京湾アクアラインの通行料金も8月1日から値下げされたこともあり、21年7～9月期の有料道路料の支出金額は、前年同期に比べ名目で11.4%の減少となる一方、100世帯当たりの購入頻度^{注2}は20年7～9月期の113回に対し、21年7～9月期は増加し、127回となった。

この時期の推移を月別にみると、1月以降の支出金額は6月を除き前年同月に比べ減少で推移している一方、購入頻度は5月以降、7月を除き前

年同月に比べ増加で推移しており、8月は前年50回に対し54回、9月は前年31回に対して41回と増加している（図22）。

注2)「購入頻度」とは、調査世帯が当該項目を家計簿に何回記入したかを示すものであり、必ずしも有料道路を利用した回数を示すものではない。

図22 有料道路料の月別支出金額及び購入頻度の推移

